令和５年度　第２回看護師職能集会報告書

【テーマ】地域包括ケアシステムを支える　看護職間及び他職種の連携強化
【日　時】令和６年２月８日（木）13：00～16：00
【場　所】岡山県看護会館　４階マスカットホール
【参加者】Web 視聴 30 名、会場 15 名、（情報提供者４名、職能委員 11 名）合計　45 名
【プログラム】

13：00　開会挨拶　看護師職能委員会委員長　池田　悦子
13：05　コーディネーター情報提供
「病院看護管理者が行政に出向して見えたこと
～新型コロナウイルスワクチン接種事業を通して～」
井原市立井原市民病院　副院長　池田　悦子

話題提供
１）「通所リハビリテーションでの在宅支援連携への取り組み」
ニューエルダーセンター通所リハビリテーション　統括責任者（作業療法士）　原田　幹
２）「望む生活を支える他職種連携とは」
天神介護老人保健施設　主任介護支援専門員（介護福祉士）　浅野　都
３）「グループホームに訪問診療同行看護師が訪問し、介護職員と対話する取組」
あさのクリニック　看護管理者（緩和ケア認定看護師）　大塚　美智子
４）「在宅療養支援のための他職種連携～事例を通して～」
津山第一病院　地域医療連携室（社会福祉士）　川口　友之
15：00　ディスカッション
15：55　閉会挨拶　岡山県看護協会　看護師職能理事　脇本　美香
16：00　閉会

【集会概要】

１．コーディネーター　情報提供

「病院看護管理者が行政に出向して見えたこと～新型コロナウイルスワクチン接種事業を通して～」
井原市立井原市民病院　副院長　池田　悦子

約３年間行政に出向し新型コロナウイルスワクチン接種事業に携わった。この事業では「希望する全ての市民に速やかに安全にワクチン接種を実施する」という目標を掲げ、平時の予防接種業務体制より大幅な業務量増大が見込まれ、組織的な体制づくりが必要であった。自身は、看護管理者として看護協会だけでなく様々な団体と関りがあった為、対策室次長として統括補佐の任務を担った。看護管理者としての取り組みでは、メンバーに声をかけ、仕事の仕上がりや成果を確認し、上司に対しては代弁する、職域接種での商工会議所との調整などを行った。出向して見えたことは、看護師は医師を動かせる職種であり、集団接種のチームワーク構築におけるリーダーシップといった役割を発揮していたことである。これらより何でも知っていて何でもできる看護師の存在はとても大きい。また看護師は PDCA サイクルをまわすことが習慣化していると感じたなど、自身の行政出向の経験をふまえた情報提供であった。

２．話題提供

1)「通所リハビリテーションでの在宅支援連携への取り組み」
ニューエルダーセンター通所リハビリテーション　統括責任者　原田　幹（作業療法士）

通所リハビリとは、その人の有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、生活機能の維持又は向上を目指し、利用者の心身の機能の維持回復を図れるよう援助することであるとの説明があった。また通所ディサービスとの違いや通所リハビリテーションが提供するサービス（食事・排泄・入浴・レクリエーション・健康管理など）をはじめ、利用メリットであるリハビリ専門職のリハビリや医師・看護師による医療的ケアにも対応していること、また事業所内外の意見交換を行うリハビリ会議を通して、個々が専門性を活かし利用者に関わった事例について紹介があった。利用者が住み慣れた地域で過ごしていけるよう今後も通所リハビリテーションの役割を果たしていきたいと締めくくられた。

2)「望む生活を支える他職種連携とは」

天神介護老人保健施設　主任介護支援専門員　浅野　都

介護支援専門員（ケアマネジャー）の役割は、多くの専門職を「つなぐ（調整）役割」とお一人おひとりの思いや意向を一緒に考え、それを専門職の方々に伝えていく「代弁者」としての役割があるとのことであった。岡山県介護支援専門員協会笠岡支部アンケート調査の結果では、看護職が関わることで心強いこととして、利用者の状態変化や見通しへの助言、適切な病状把握、かかりつけ医への連絡や相談などが上位を占めていた。看護職へのお願いや期待については、対応した看護師によって回答に違いがあり「統一した見解を示してほしい」や入退院における利用者の詳細なＡＤＬや病状の情報提供、医療処置の必要な方への積極的なショートステイの受け入れ検討、ケアマネの判断が難しい時は相談にのって欲しい、緊急時に看護師へ伝えるべきポイントを教えて欲しいといった内容が紹介された。

3)「グループホームに訪問診療同行看護師が訪問し、介護職員と対話する取り組み」

あさのクリニック　主任看護師　大塚　美智子（緩和ケア認定看護師）

看取りの可能なグループホームが数少ない中、グループホームから救急搬送され病院で看取るケースや家族等のグループホームでの看取りの要望から、訪問診療同行看護師の介入による看取りの取り組みが紹介された。具体的な取り組みとしては、「これからの過ごし方について」と題し、２枚程度の OPTIM 看取りのパンフレットを使用し、施設職員の看取りへの理解促進やイメージング、名前を呼び合うことを意識したディスカッションなどを通して、施設職員の看取りへの不安を払拭した実践が紹介された。訪問診療同行看護師は、グループホーム職員の相談や承認による関係構築だけでなく、急性増悪時の訪問看護ステーションへのつなぎ役も役割であり、今後も在宅においてできることとできないことを認識し取り組んでいきたいと話された。

4)「在宅療養支援のための多職種連携～事例を通して～」

津山第一病院　地域医療連携室　川口　友之（社会福祉士）

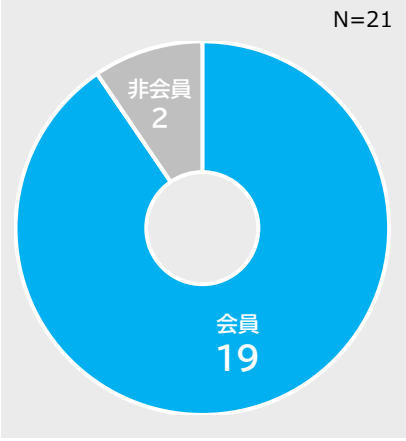
津山市の多職種連携の取り組みとして、津山市医療・介護連携推進委員会委員および所属病院の地域医療連携室の社会福祉士の立場から話題提供があった。津山市内の医療機関（診療所・病院）51 施設のうち訪問診療を行っている施設は 28 施設であり、そのうち在宅医療は自院で診ていた患者のみ行っていると回答した施設が 24 施設、自院以外の訪問診療を行っている施設は 4 施設であったことが紹介された。今後の課題は、後方支援や紹介元である病院との連携の不十分さであり、これらは情報不足や在宅医療に関する知識不足が要因として考えられるとのことであった。一方、ケアマネジャーや訪問看護等との多職種連携については、不十分との回答が 0 件であった。事例紹介では、訪問看護師の的確な判断や訪問診療医との信頼関係によるスピーディな調整がなされたことで、病院から退院し在宅看取りとなった事例が紹介された。円滑な連携において、直接診療所へ訪問するなど工夫した取り組みが紹介された。

3. ディスカッション

WEB 参加者の質問に対して、話題提供者の皆様からの立場・経験からの発言があった。地域包括ケアの取り組みが進んでいる中、制度と患者の要望の“隙間”への対応、どのように“隙間”を埋めるかについてディスカッションされた。制度の理解、多職種間の連携が重要と感じる時間であった。

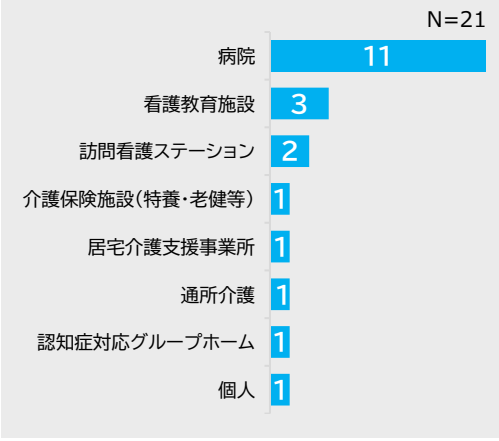
4．アンケート結果アンケート回収数：21 人（回収率 70.0%）

質問 1. 看護協会への入会

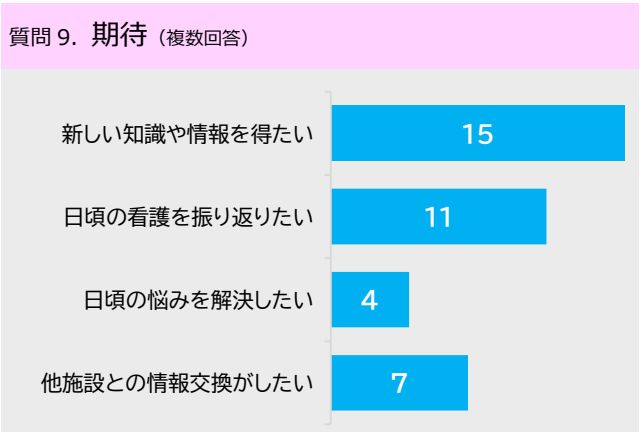


質問 2. 支部

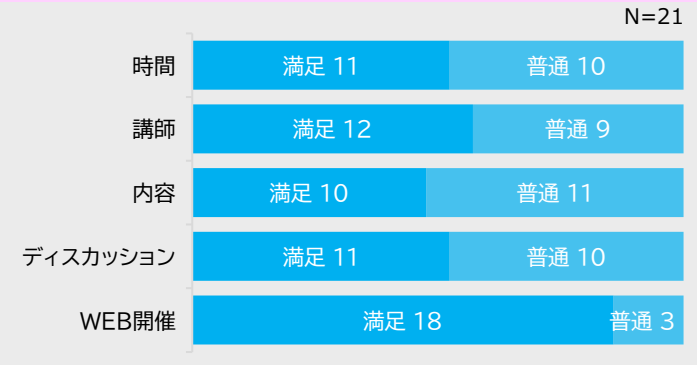
質問 3. 勤務施設



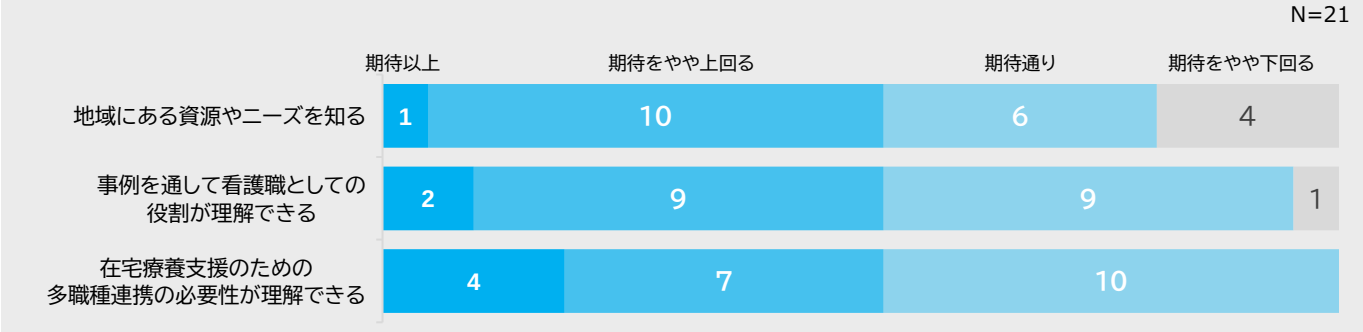
質問 9. 期待（複数回答）



質問 10. 満足度



質問 11. 目的達成度



今回の集会全般に関するご意見・感想など

- 今後の課題など明確になり日々の業務に活かしていきたいと思います。
- 地域差なく医療介護サービスが受けたいものです。
- マンパワーとして潜在ナースの活躍の場や退職後も経験を活かして働ける場の提供があれば嬉しいです。現場の患者事例報告は、分かりやすかったです。ありがとうございました。
- 様々な施設の在宅支援状況を聞く事が出来て大変勉強になりました。
- 様々な困り事がありますが、色々と工夫して対応していく力をつけたいと思いました。
- 貴重な研修をありがとうございました。
- 岡山県内の事業所の現状が理解できました。
- 県北では介護保険サービスが少なかったり、訪問診察をする医師が殆どいないなど特に在宅の看取りを希望されてもどうしても病院や施設での看取りになってしまいます。他職種と連携しそれぞれの立場で話をきいてもらい変化していく医療や介護の現場を知ってもらえばお互いの勉強になるのではないかと思いました。
- 他施設での在宅での関り、施設内での取り組み事例を通して受講できて良かったです。
- 情報提供各１題の講義時間が長かったので、調整をご検討ください。
- 時に音が小さく聞き取りにくかった。